

歯科口腔保健の重要性

- データから他職種への理解に -

我が国の小児のう蝕有病者率の減少には、目を見張るものがあります。平成5年に7割近い学童の有病者率が、平成28年には2割までに減っているからです。一方、それは変化の一面でしかなく、全体のう蝕有病者率はその後急増し、高齢者では小児期とは逆の現象が生じています。口腔ケアが不十分で、根面う蝕を有する機能歯が破折し、咀嚼機能低下症高齢者の増加が危惧されます。歯科疾患の実情を、統計学の第一人者の相田先生と共に再確認してみませんか。

歯科学術委員長 五十嵐 公英

【日時】 **11月29日(木) 19:00~20:45**

【会場】 **宮城県保険医協会研修ルーム**

(仙台市青葉区本町 2-1-29 仙台北町ホンマビル 4F)

【講師】 **相田 潤氏**

(東北大学大学院歯学研究科 国際歯科保健学分野・臨床疫学統計支援室)

【ご注意】

※お車でのご越しになられる方は会場周辺の有料駐車場をご利用ください。

※市営地下鉄広瀬通駅から徒歩1分

※セキュリティの関係で表入口(広瀬通側)は閉扉されていますので、裏の通用口からお入り下さい。裏の通用口が施錠されている場合は、事務局(TEL. 022-265-1667)までお電話下さい。

裏面に講師御略歴・コメントを紹介しておりますのでご覧下さい。

【参加対象】 会員および従業員

【参加費】 無料

【申込・問合せ】

宮城県保険医協会 事務局

TEL : 022-265-1667

FAX : 022-265-0576

E-mail : miyagi-hok@doc-net.or.jp

HP : <http://miyagi-hok.org>

宮城県保険医協会 歯科学術研究会 (11/29・木) 参加申込用紙 (FAX.022-265-0576)

医療機関名 (勤務先)		お名前	
TEL		参加人数	人

御略歴

平成15年北海道大学歯学部卒、国立保健医療科学院専門課程、北海道大学大学院歯学研究科予防歯科学講座博士課程を経て、平成19年から東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野助教。平成22年から23年にUniversity College Londonに研究留学。平成23年から東北大学大学院歯学研究科准教授、24年から宮城県保健福祉部参与を兼任。平成26年から東北大学大学院歯学研究科臨床疫学統計支援室室長を併任。International Centre for Oral Health Inequalities Research and Policyコアメンバー、JAGESプロジェクトコアメンバー、日本口腔衛生学会委員などを務める。

講師コメント

近年注目される歯科疾患の重要性として、「有病率の高さ」とそこからくる疾病負担が上げられる。特に永久歯う蝕は約300の疾患の内、最も有病率が高いことが報告されており、国際歯科連盟などはこうしたデータを活用して歯科疾患の重要性を訴えている。日本でもこうした状況は同様である。また高齢者においては近年う蝕や歯周病の顕著な増加が認められている。しかしながら「う蝕は減った」というイメージから、歯科疾患の有病率の高さについてはあまり認識されていない。本講演ではこうしたことを含めて、他職種に理解が得られるような歯科疾患の重要性をデータから明らかにしたい。